

### Ⅲ 人と人とのつながり・支え合いの状況

#### 1 会話頻度とコミュニケーションの手段

18歳以上の世帯員に対して、普段どの程度、人とあいさつ程度の会話や世間話をするかという質問で会話頻度を尋ねているが、その回答の集計結果が図表 III-1 である。選択肢は、「毎日」「2～3日に1回」「4～7日（1週間）に1回」「2週間に1回」「1か月に1回」「ほとんど話をしない」であるが、本章では、「2週間に1回」「1か月に1回」「ほとんど話をしない」を「2週間に1回以下」としてまとめている。

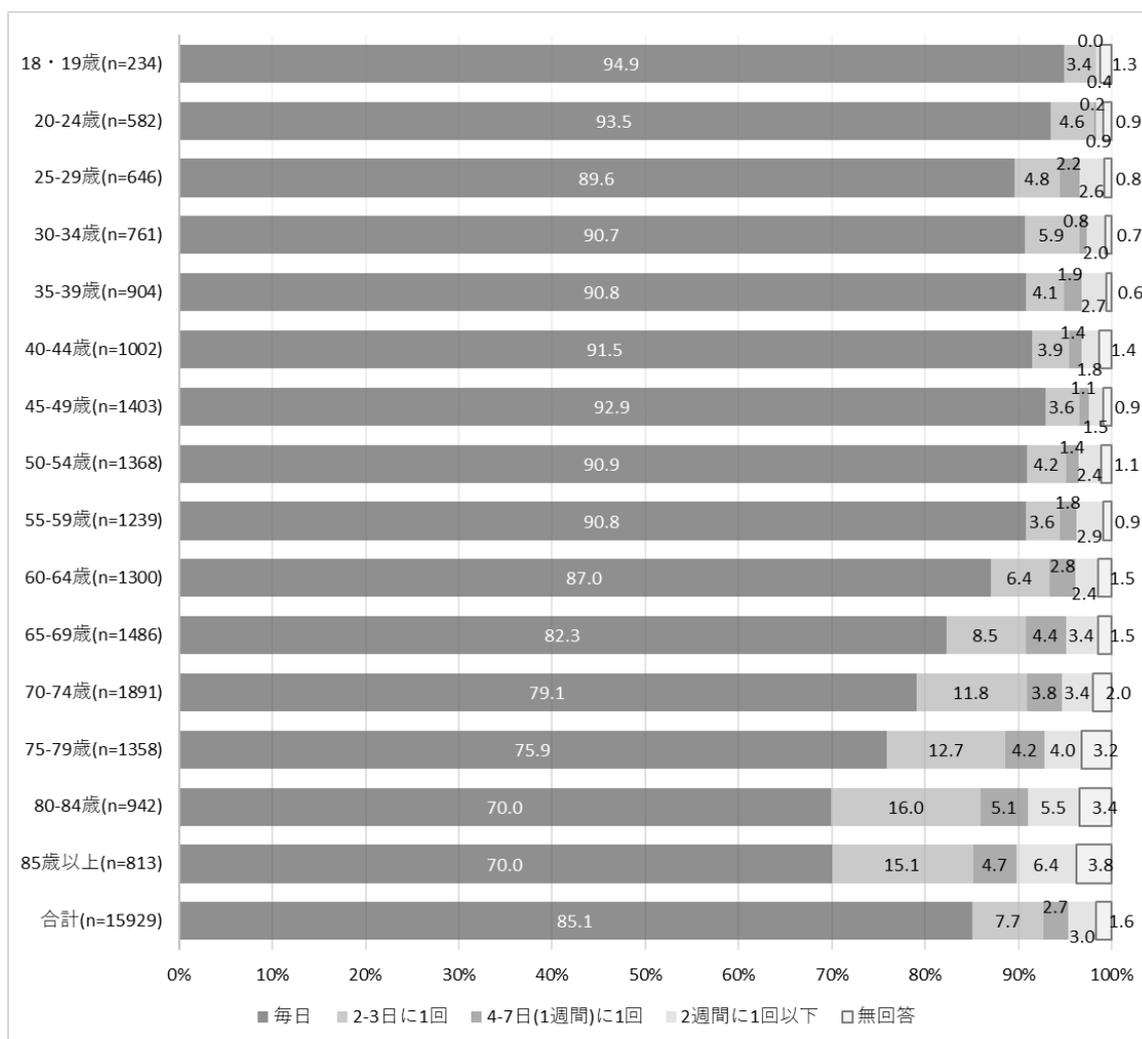
毎日会話する者の割合は全体で85.1%（前回調査では91.2%）、2週間に1回以下の者の割合は3.0%（前回調査では2.2%）である。前回調査よりも全般的に毎日会話する者の割合が低くなり、2週間に1回以下の者の割合は増加している。

性・年齢階級別に見ると、60歳未満に関して、毎日会話する者の割合は、男性ではいずれの年齢階級でも90%前後、女性では25～29歳以外の年齢階級で90%以上となっている。

他方で60歳以上では、男女ともに年齢階級が高い層で毎日会話する者の割合が低くなっている。特に80歳以上の女性については、80～84歳で68.9%、85歳以上で69.1%と大きく低下し、同年代の男性よりも低くなっている。ただし、2～3日に1回まで含めると80～84歳の女性で88.7%、85歳以上の女性は85.5%であり、他の年齢階級と比較してそれほど低下していない。

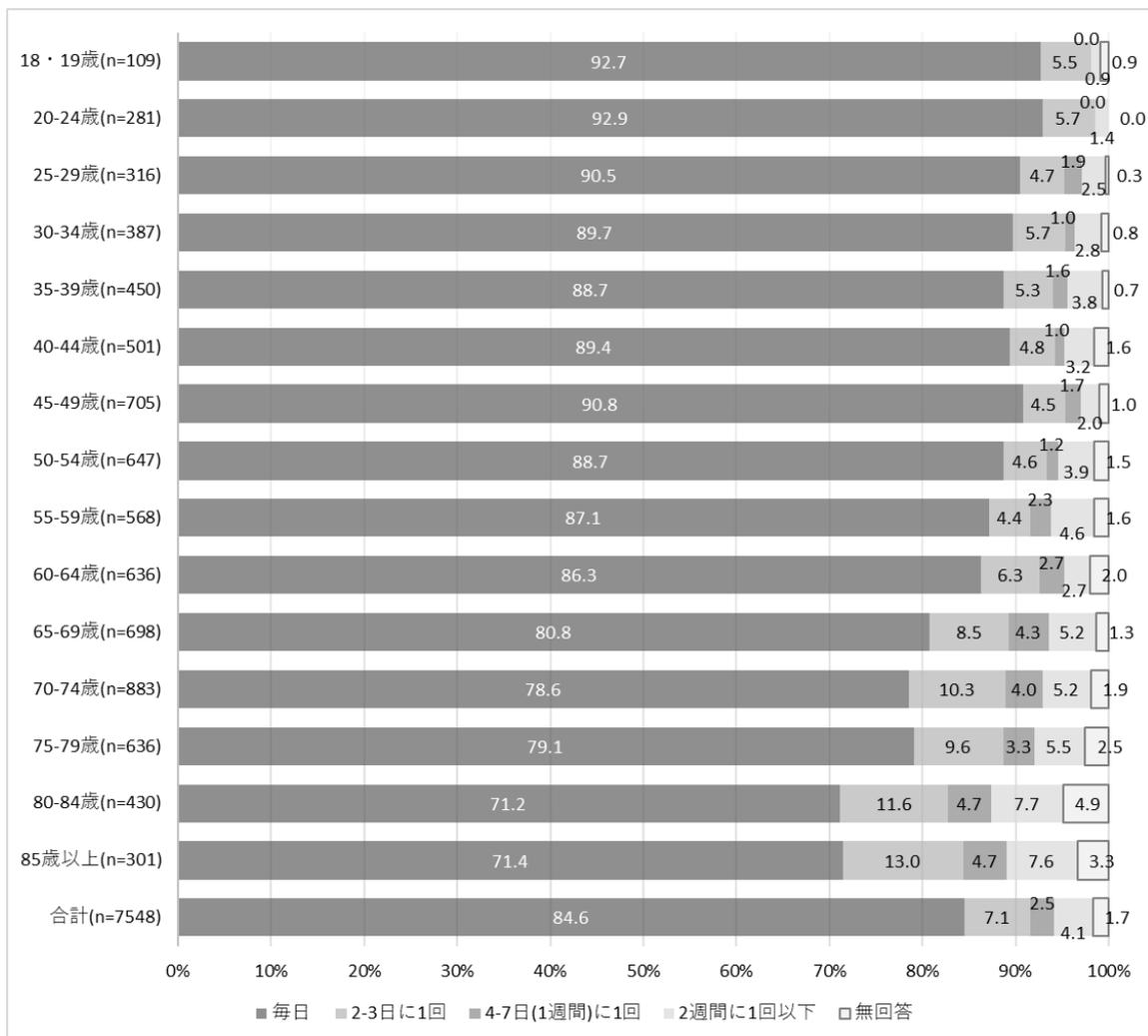
図表 III-1 性・年齢階級別 普段の会話頻度別 個人の割合 (%)

①男女計



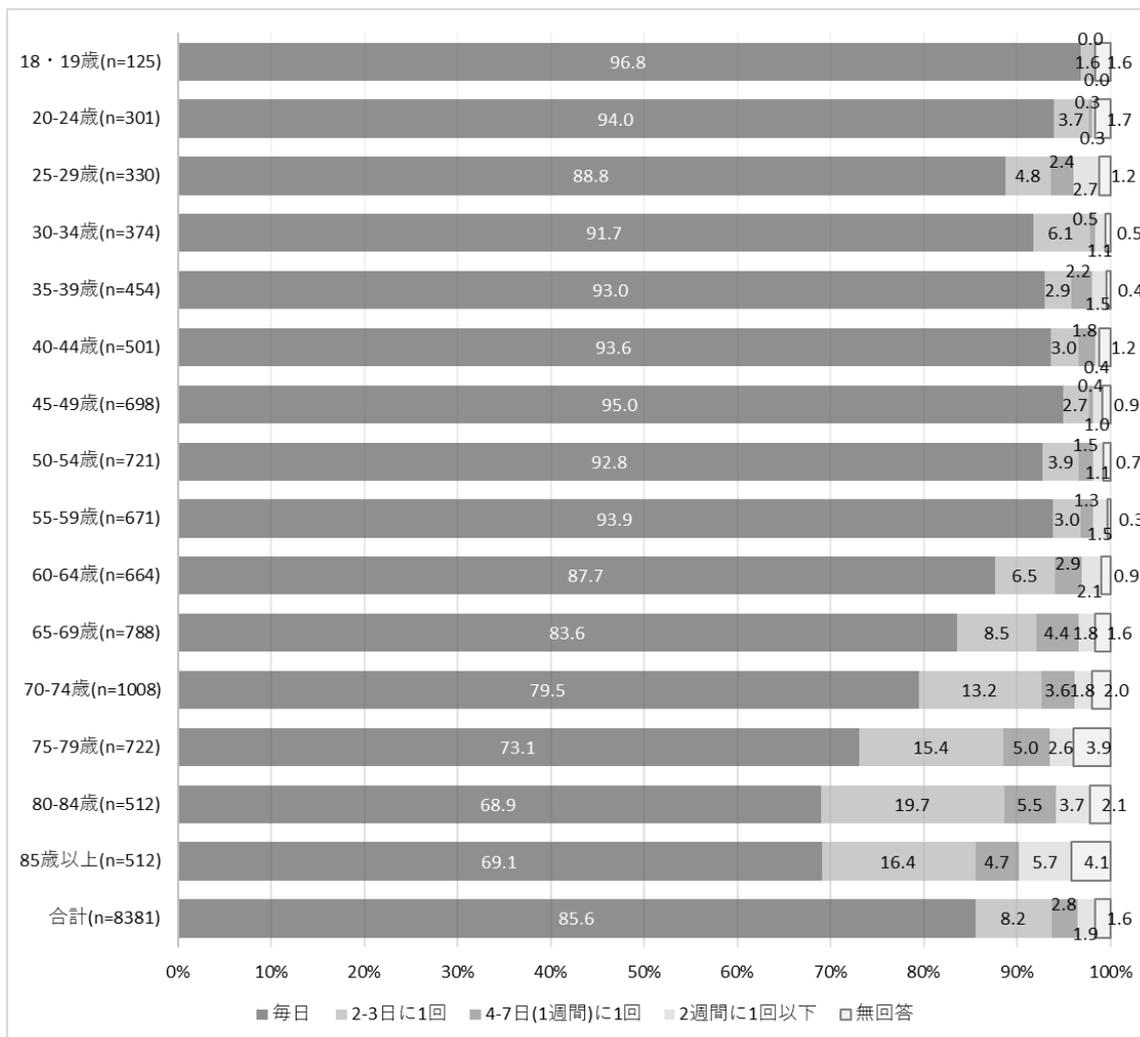
注) 個人票により集計している。

②男性



注) 個人票により集計している。

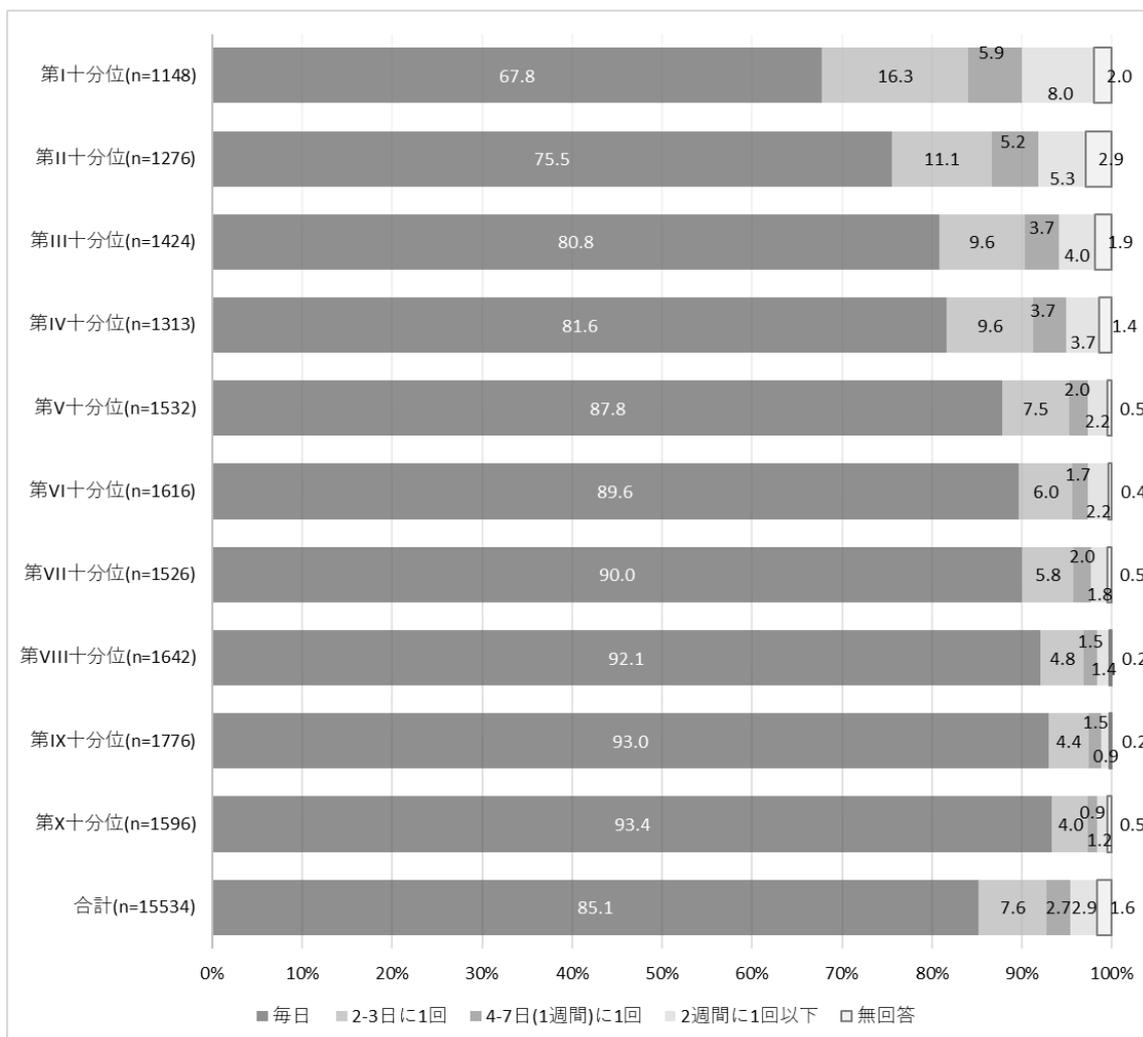
### ③女性



注) 個人票により集計している。

等価可処分所得階級別に会話頻度を見ると（図表 III-2）、所得階級が高い層で、毎日会話する者の割合が高くなっている。逆に会話頻度が2週間に1回以下の人は、所得階級が低い層で多くなっている。

図表 III-2 等価可処分所得階級別 普段の会話頻度別 個人の割合（％）

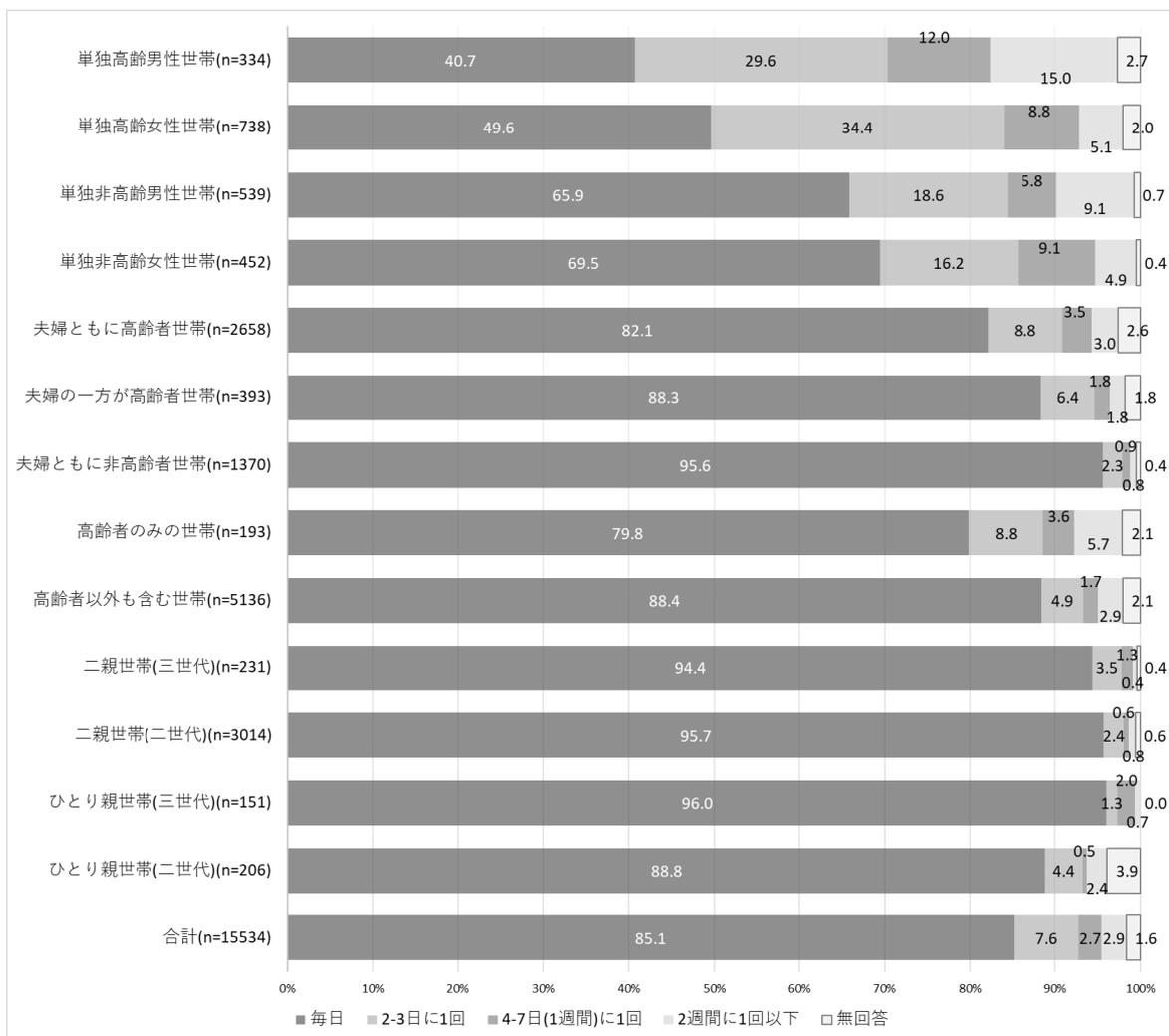


注) 世帯票及び個人票より集計している。合計には、世帯票に回答がない世帯に属する個人は含まないが、収入額が無回答のため等価可処分所得が不明の世帯に属する個人を含む。

世帯タイプ別に会話頻度を見ると、単独世帯において毎日会話する者の割合が低いことが分かる（図表 III-3）。その中でも、単独高齢男性の会話頻度が低く、2週間に1回以下の者の割合が15.0%となっている。これは前回調査（14.8%）とほぼ同じである。他方で、単独高齢女性については、2週間に1回以下の者の割合は5.1%で前回調査（5.4%）

とほぼ同じであるが、毎日会話する者の割合が 49.6%と前回調査（61.1%）と比較して低下している。

図表 III-3 世帯タイプ別 普段の会話頻度別 個人の割合（%）

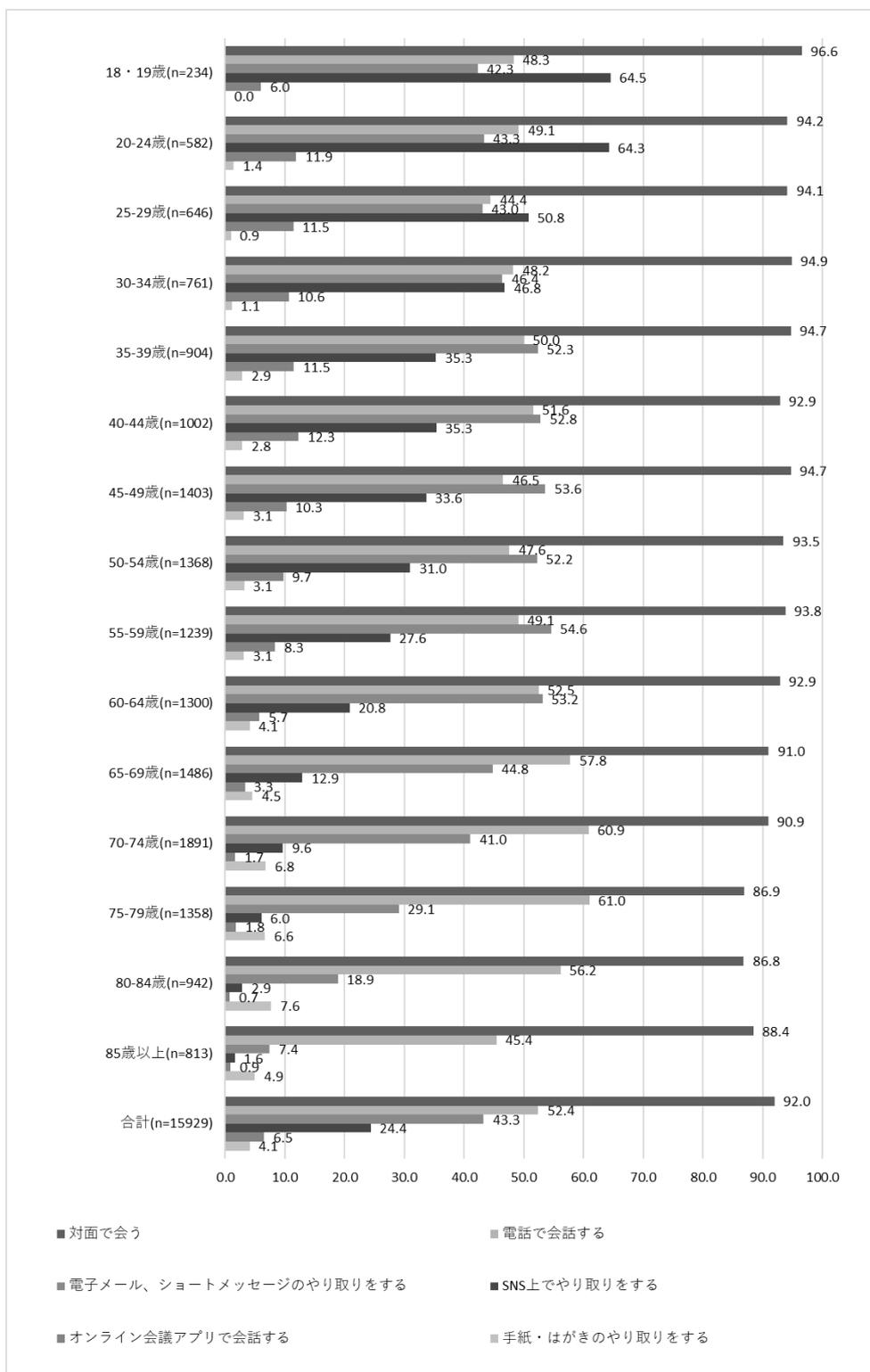


注) 世帯票及び個人票により集計している。合計には各世帯タイプに分類できない世帯に属する個人を含むが、世帯票に回答がない世帯に属する個人は含まない。

普段の会話やコミュニケーションの方法・手段について複数回答で尋ねた質問の集計結果が図表 III-4 である。若年層で SNS を活用したコミュニケーションを行う者の割合が高くなっている。手紙やはがきのやり取りほどの性・年齢階級でも 10%未満であるが、その中でも年齢階級が上がるほど割合が高くなっている。

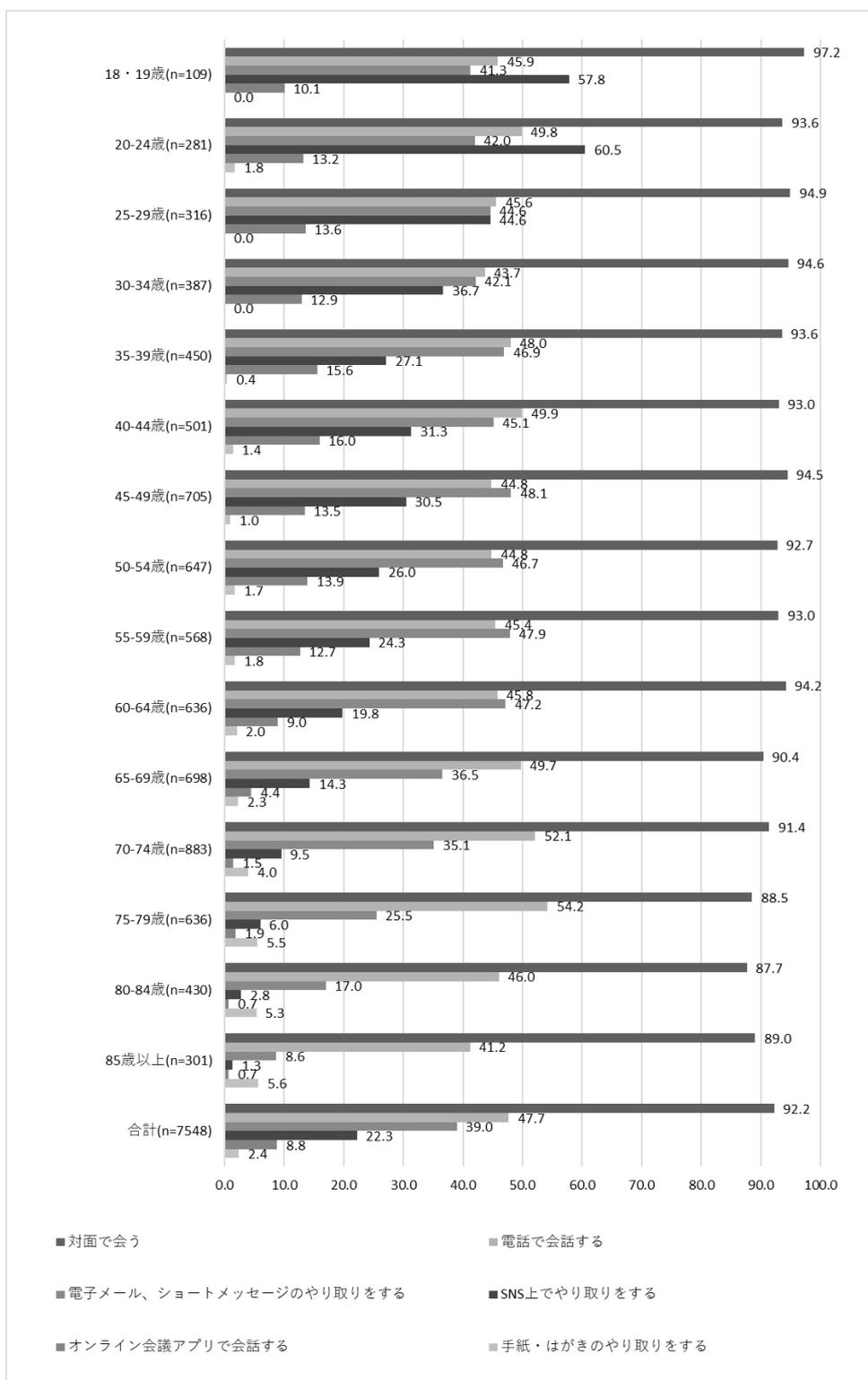
図表 III-4 性・年齢階級別 コミュニケーション方法別 個人の割合 (%) (複数回答)

①男女計



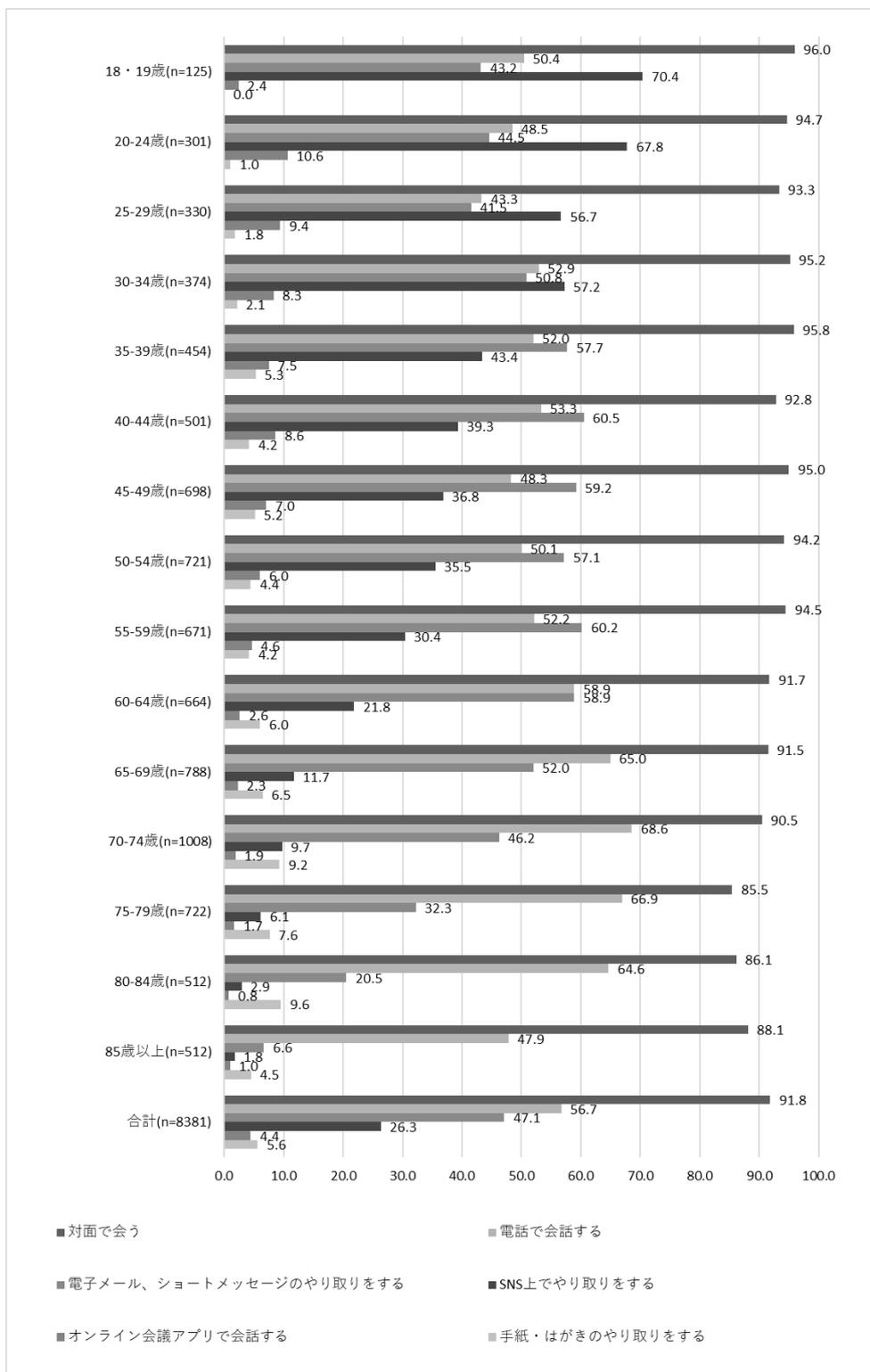
注) 個人票により集計している。分母には無回答を含む。

## ②男性



注) 個人票により集計している。分母には無回答を含む。

### ③女性



注) 個人票により集計している。分母には無回答を含む。

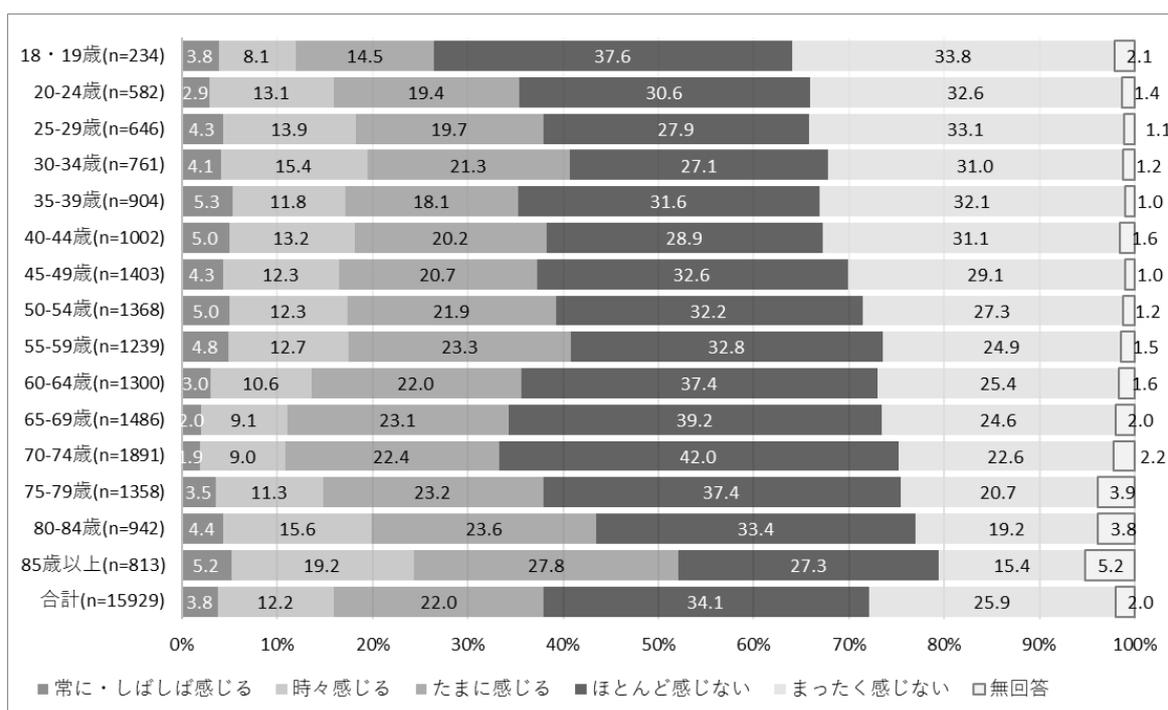
## 2 孤独感

孤独感を感じるかどうかという質問に対する回答を性・年齢階級別にみたものが図表 III-5 である。孤独感を「常に・しばしば感じる」及び「時々感じる」人の割合は全体では 16.0% となっている。年齢別にみると最も高いのは 85 歳以上の年齢階級であるが、それ以外では、20 代後半から 30 代前半、40 代前半、50 代で比較的高くなっており、他方で 60 代後半から 70 代前半で若干低くなっている。

孤独感を「常に・しばしば感じる」及び「時々感じる」人の割合を男女別にみると、男性は 85 歳以上の階級以外では、20 代前半と 40 代から 50 代で高くなっている。女性は 30～34 歳で、孤独感を「常に・しばしば感じる」者の割合が 3.5% であるが、「時々感じる」が 20.9% と比較的高い割合になっている。また、80 歳以上の年齢階級で孤独感を「常に・しばしば感じる」及び「時々感じる」人の割合が高くなっている。

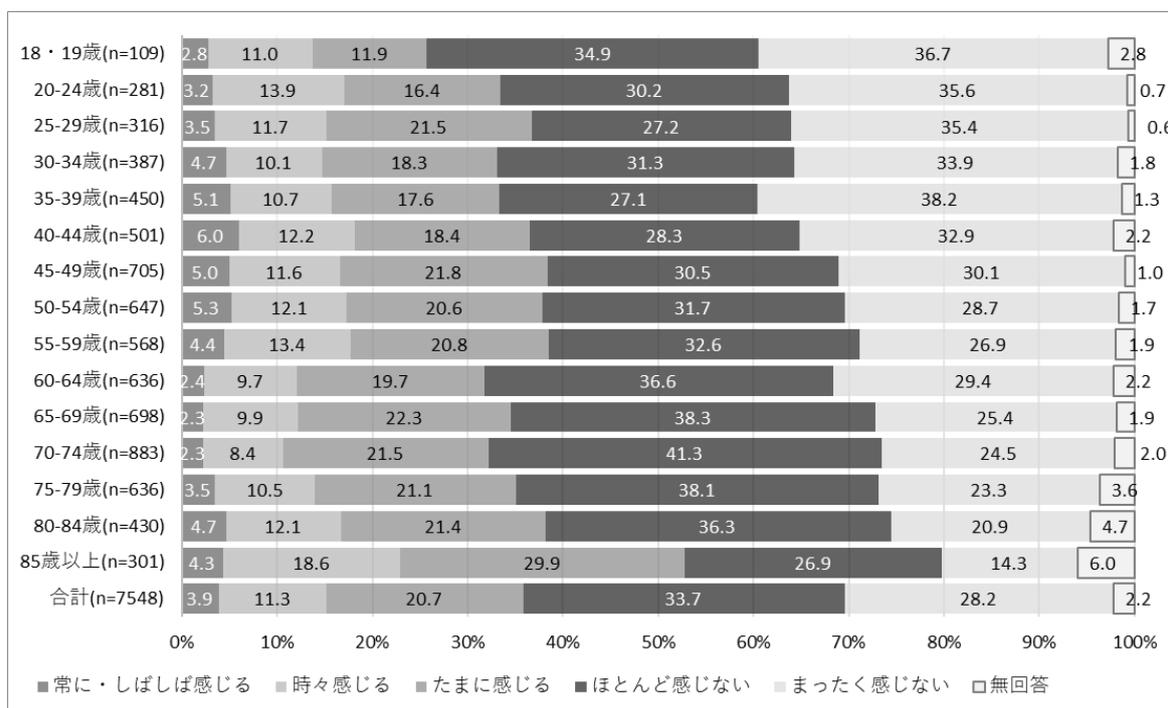
図表 III-5 性・年齢階級別 孤独感別 個人の割合 (%)

### ①男女計



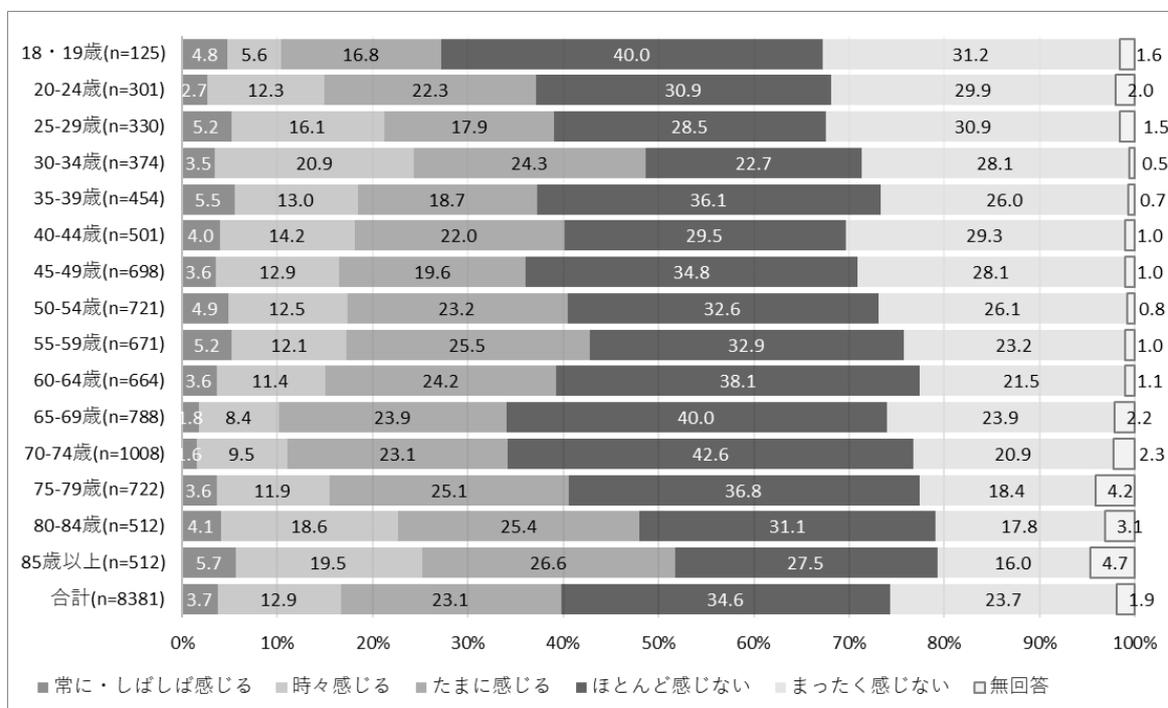
注) 個人票により集計している。

## ②男性



注) 個人票により集計している。

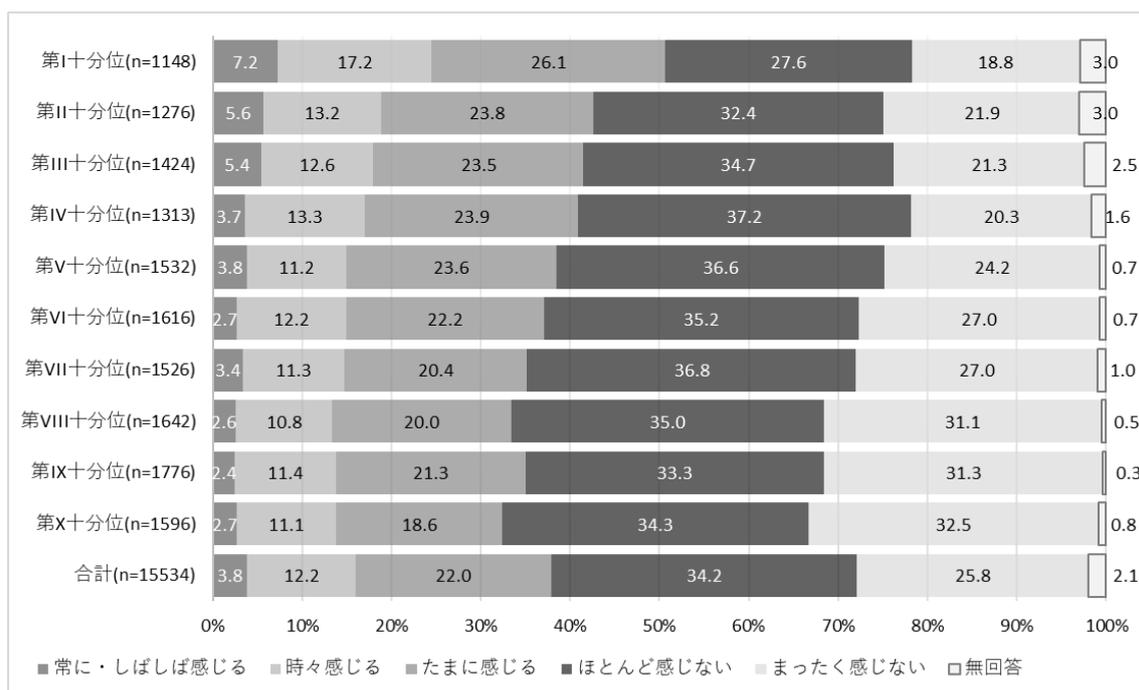
## ③女性



注) 個人票により集計している。

孤独感を感じるかどうかという質問に対する回答を等価可処分所得階級別にみたものが図表 III-6 である。所得階級が低いほど孤独感を感じる者が多い傾向にあり、孤独感を「常に・しばしば感じる」及び「時々感じる」者の割合は、第 I 十分位でそれぞれ 7.2%、17.2%であるのに対し、第 X 十分位でそれぞれ 2.7%、11.1%となっている。

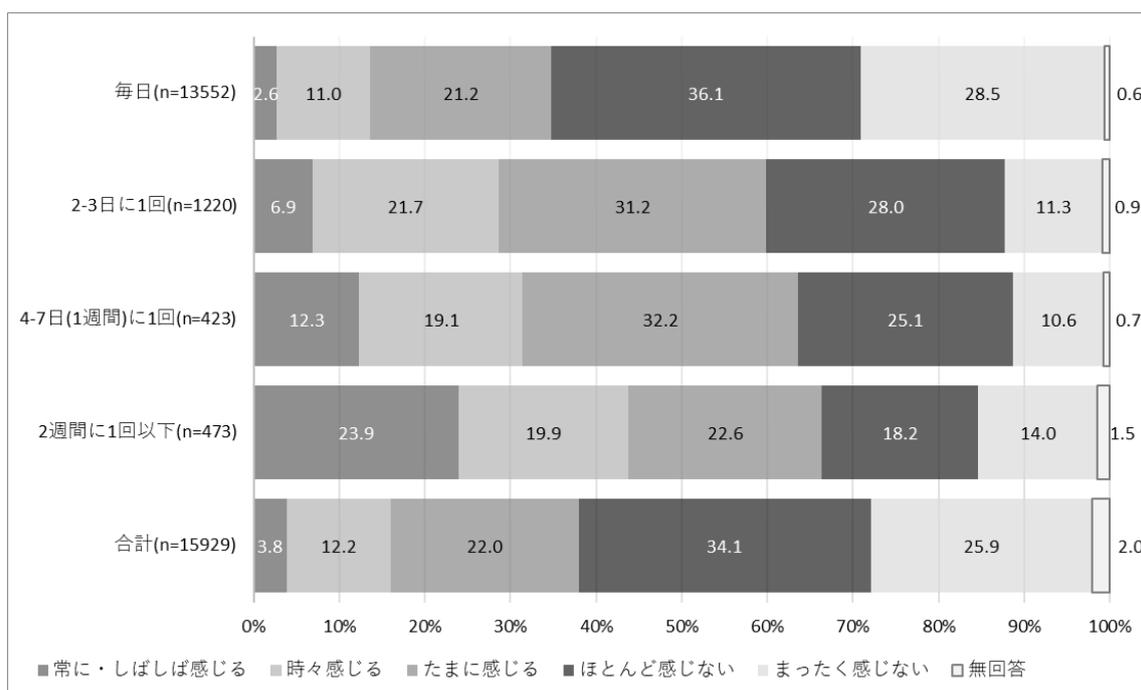
図表 III-6 等価可処分所得階級別 孤独感の程度別 個人の割合 (%)



注) 世帯票及び個人票により集計している。全体の合計には所得額が無回答のため等価可処分所得が不明の世帯を含む。

また、会話頻度別に孤独感の程度をみたものが図表 III-7 である。会話頻度が低い者の方が孤独感を「常に・しばしば感じる」、「時々感じる」の合計の割合が高い。他方で、2 週間に 1 回以下の会話頻度の者の方が、2-3 日に 1 回及び 4-7（1 週間）に 1 回の会話頻度の者よりも孤独感をまったく感じない者の割合が高くなっている。

図表 III-7 普段の会話頻度別 孤独感の程度別 個人の割合（％）



注) 個人票により集計している。

### 3 日常生活で頼れる人

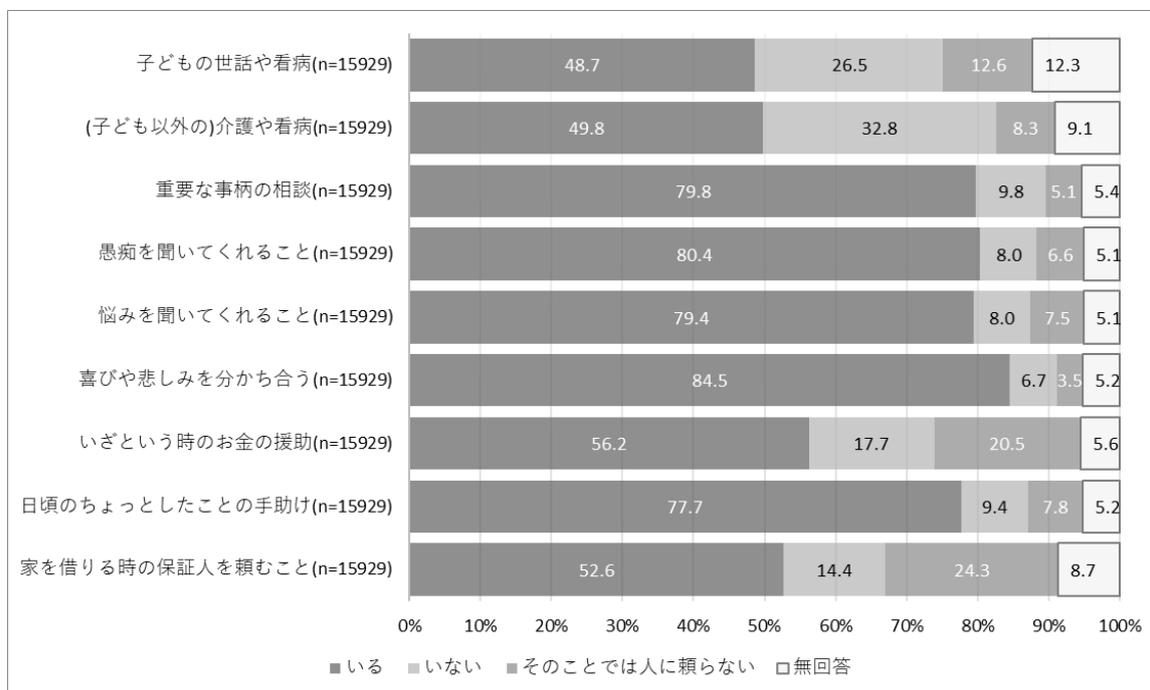
本調査では、18歳以上の世帯員に対して、9種類の事柄（サポート種類）ごとに、頼れる人（サポート提供者）の有無とその相手を尋ねている（頼れる相手は複数回答）。

サポート種類別に頼れる人の有無をみると（図表 III-8）、子どもの世話や看病、（子ども以外の）介護や看病で頼れる人がいないと回答する者の割合が高い。ただし、子どもの世話や看病については、回答者の子どもの有無を限定していないことに留意が必要である。

頼れる人がいると回答した者について、サポート種類別に頼れる相手の割合を見ると（図表 III-9）、いずれのサポートについても「家族・親族」が最も高い。「家族・親族」に次いで割合が高いのは「友人・知人」であるが、いずれのサポート種類においても「家族・親族」に比べて大幅に低くなる。「友人・知人」を頼れる人とする者の割合は、「愚痴を聞いてくれること」（53.7%）、「悩みを聞いてくれること」（52.4%）、「喜びや悲しみを分かち合うこと」（47.3%）、「日頃のちょっとしたことの手助け」（32.2%）、「重要な事柄の相談」（25.8%）において比較的高い。

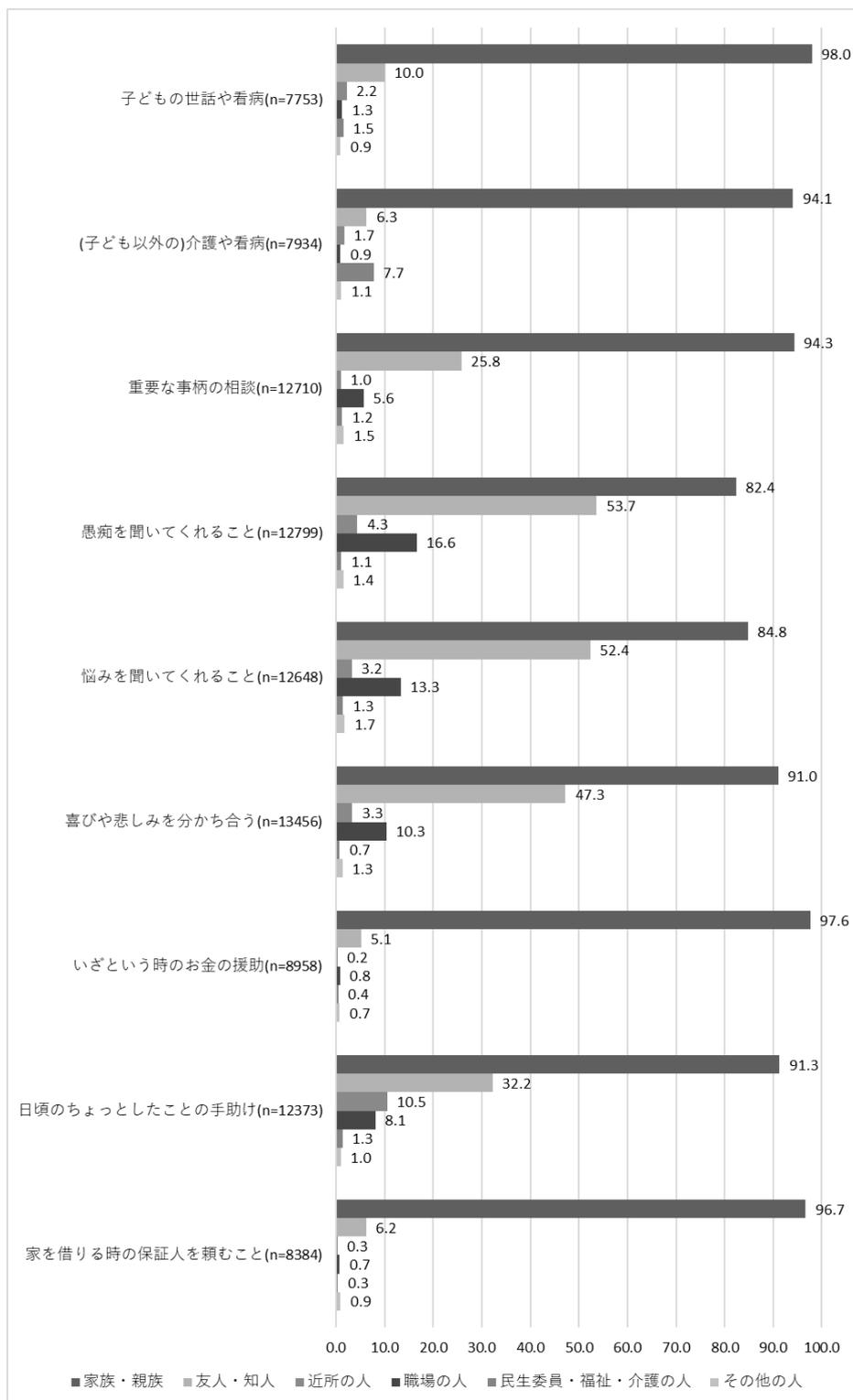
また、「近所の人」は「日頃のちょっとしたことの手助け」、「職場の人」は「愚痴を聞いてくれること」、「悩みを聞いてくれること」、「喜びや悲しみを分かち合うこと」に関して、頼れる人として挙げる者の割合が10%を上回り、相対的に高くなっている。

図表 III-8 頼れる人の有無別 個人の割合（%）



注) 個人票により集計している。

図表 III-9 頼れる相手別 個人の割合 (%) (複数回答)



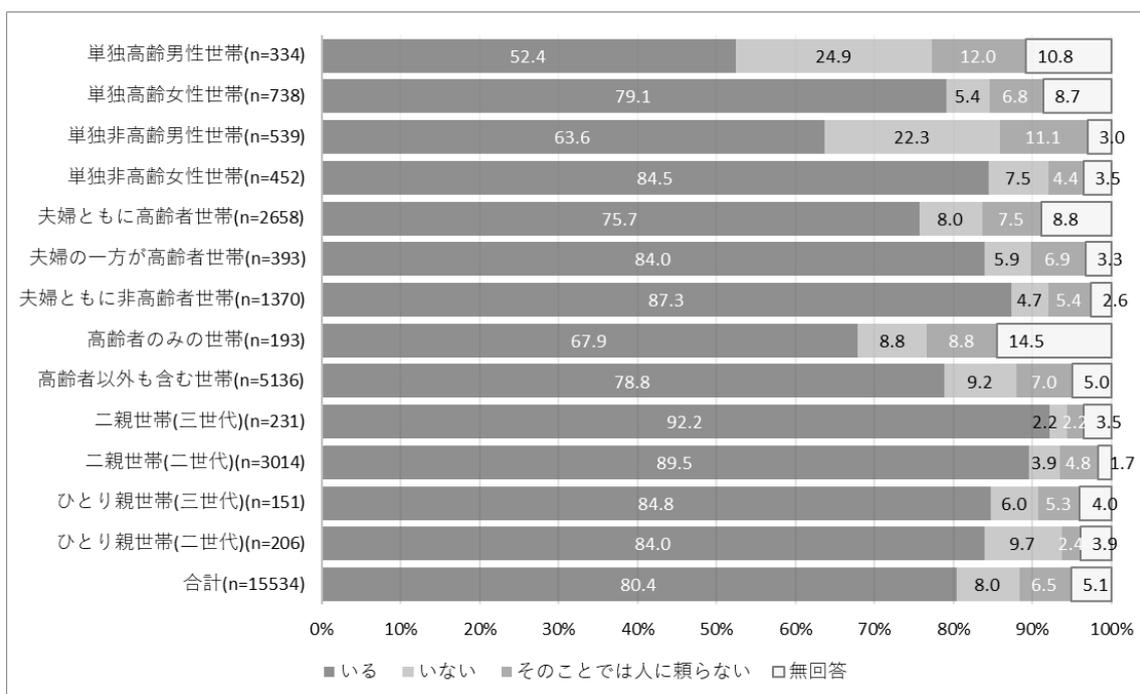
注) 個人票により集計している。各合計はその事柄で頼れる人がいると回答した人数であり、頼れる相手を尋ねる質問に対する無回答を含む。

サポート種類のうち、「愚痴を聞いてくれること」について頼れる人がいる者の割合、及び頼れる人がいる場合のその相手について、世帯タイプ別に見た(図表 III-10、図表 III-11)。

単独世帯で頼れる人がいる者の割合は、それ以外の世帯タイプに比べて全体として低い  
が、とりわけ単独世帯の男性は頼れる人が「いない」(高齢 24.9%、非高齢 22.3%)、「その  
ことでは人に頼らない」(高齢 12.0%、非高齢 11.1%)と回答した割合が他の世帯タイプと  
比較して高い。他方で、女性は比較的頼れる人がいる割合が高く、単独高齢女性世帯で頼れ  
る人がいない者の割合は 5.4%にとどまる。

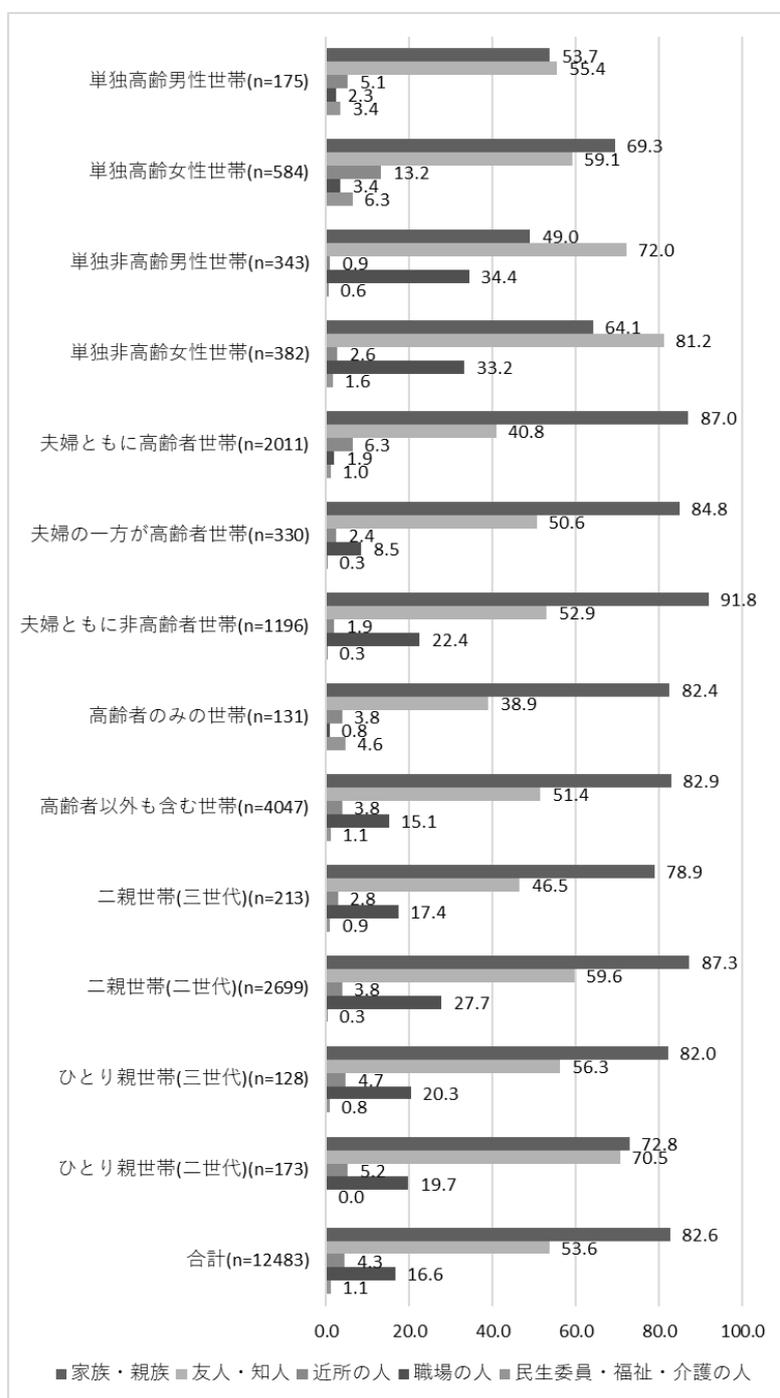
頼れる相手については、基本的に世帯タイプにかかわらず、「家族・親族」を挙げる者が  
最も多い。また、「友人・知人」を頼れる人として挙げる者の割合も相対的に高くなって  
いる。とりわけ、単独非高齢世帯では、「家族・親族」よりも「友人・知人」を頼れる人とし  
て挙げる者の割合が高くなっている。

図表 III-10 世帯タイプ別 頼れる人の有無(愚痴を聞いてくれること)別 個人の割合 (%)



注) 世帯票及び個人票により集計している。合計には上記の各世帯タイプに分類できない世帯に属する個人も含む。

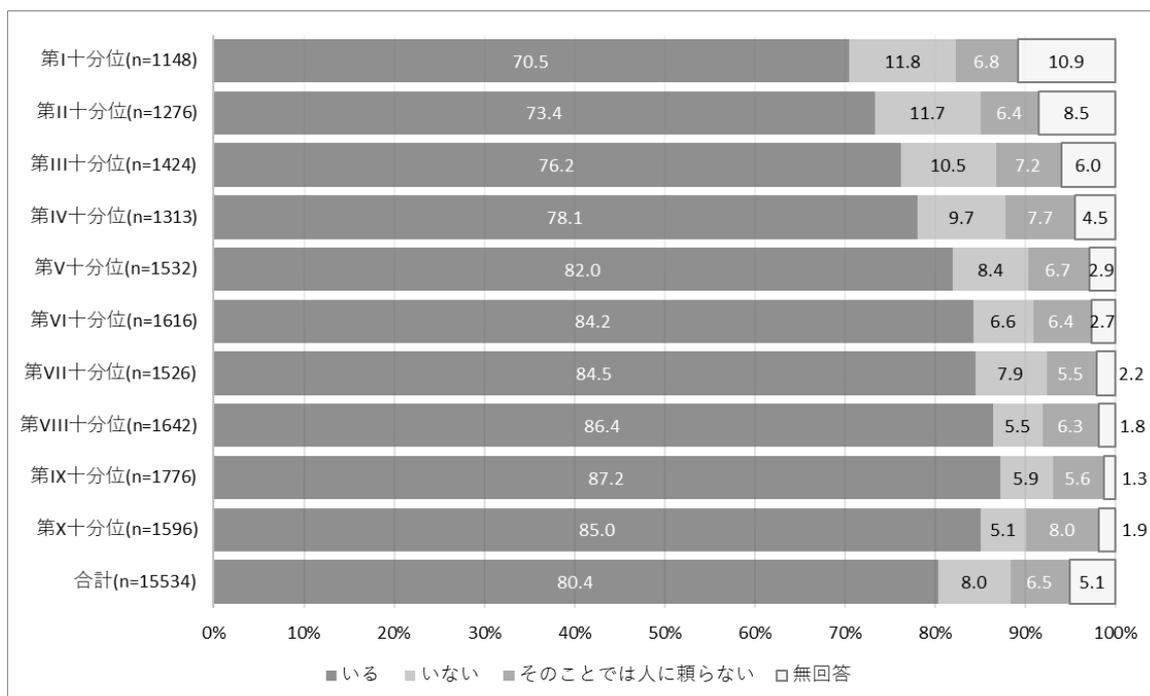
図表 III-11 世帯タイプ別 頼れる相手（愚痴を聞いてくれること）別 個人の割合（％）  
（複数回答）



注) 世帯票及び個人票により集計している。合計には各世帯タイプに分類できない世帯に属する個人も含む。各合計は、愚痴を聞いてくれることで頼れる人がいると回答した人数である。頼れる人の選択肢のうち「その他の人」は省略している。

同様に「愚痴を聞いてくれること」について頼れる人がいる者の割合を、等価可処分所得階級別に見た（図表 III-12）。所得階級が低い方が「愚痴を聞いてくれること」について頼れる人がいない割合が高い。また、人に頼らない者の割合は等価可処分所得階級別では大きな差異はない。

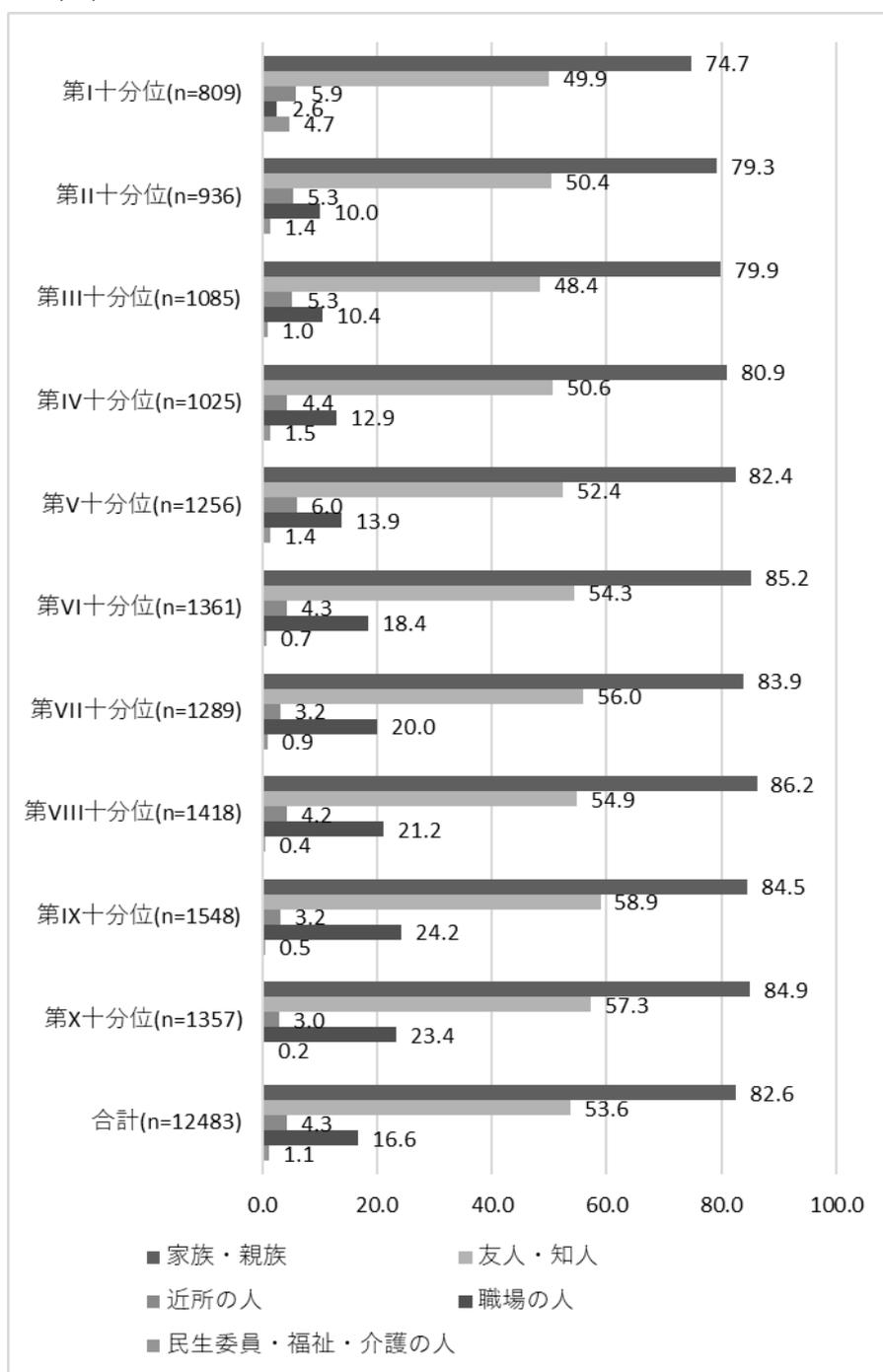
図表 III-12 等価可処分所得階級別 頼れる人の有無（愚痴を聞いてくれること）別 個人の割合（％）



注) 世帯票及び個人票により集計している。全体の合計には所得額が無回答のため等価可処分所得が不明の世帯に属する個人を含む。

図表 III-13 は、「愚痴を聞いてくれること」で頼れる人がいる場合に、その相手について等価可処分所得階級別に集計している。「家族・親族」を頼れる相手として挙げている者は、いずれの所得階級でも 7 割を超えるが、その中でも所得の低い階級ほど割合は低くなっている。また、「職場の人」を挙げている者の割合は、所得階級が高い方が多い傾向にある。

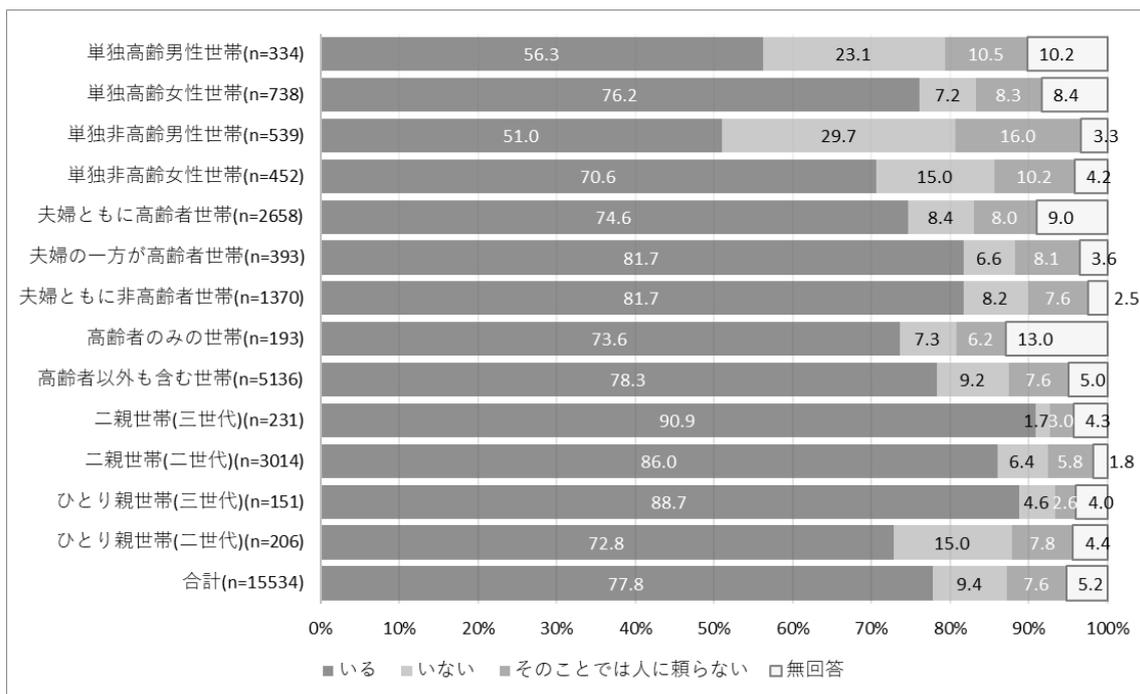
図表 III-13 等価可処分所得階級別 頼れる相手（愚痴を聞いてくれること）別 個人の割合（％）



注) 世帯票及び個人票により集計している。全体の合計には所得額が無回答のため等価可処分所得が不明の世帯に属する個人を含む。各合計は、愚痴を聞いてくれることで頼れる人がいると回答した人数である。頼れる人の選択肢のうち「その他の人」は省略している。

図表 III -14 は、世帯タイプ別に「日頃のちょっとしたことの手助け」で頼れる人の有無を集計している。単身男性世帯（高齢・非高齢）、単身非高齢女性世帯、ひとり親世帯（二世帯）で、日頃のちょっとした手助けで頼れる人がいない者の割合が高くなっている。

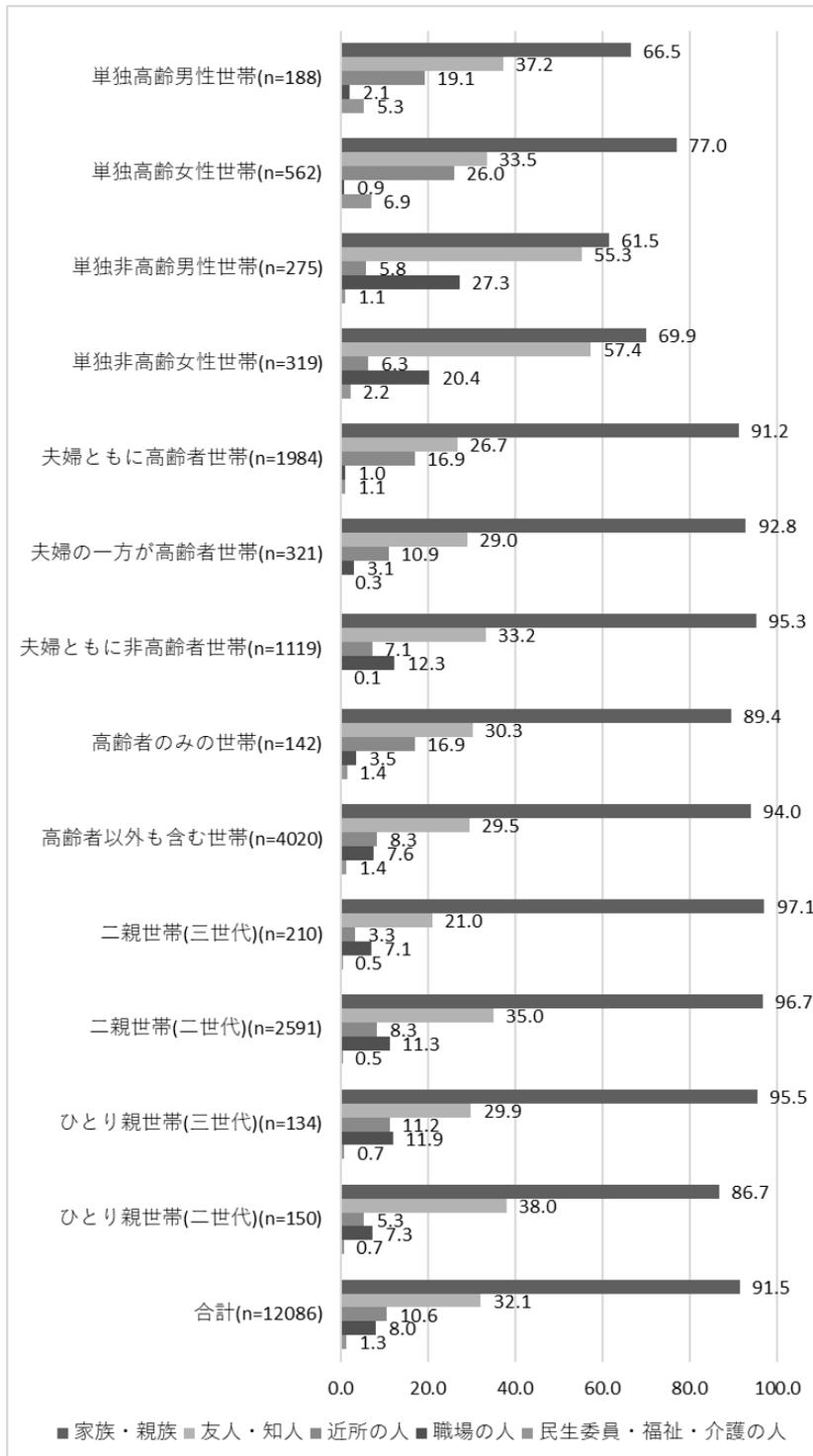
図表 III-14 世帯タイプ別 頼れる人の有無（日頃のちょっとした手助け）別 個人の割合（％）



注) 世帯票及び個人票により集計している。合計には各タイプに分類できない世帯に属する個人を含む。

図表 III-15 は、「日頃のちょっとしたことの手助け」で頼れる人がいる場合に、その相手について世帯タイプ別に集計している。単独世帯では、その他の世帯タイプと比較して、「家族・親族」の割合が低くなっている。他方で、単独高齢世帯では、「近所の人」を挙げている者の割合が相対的に高い。日頃のちょっとした手助けで頼れる人がいる者のうち、単独高齢女性世帯では 26.0%、単独高齢男性世帯では 19.1%の者が近所の人を頼ることができている。

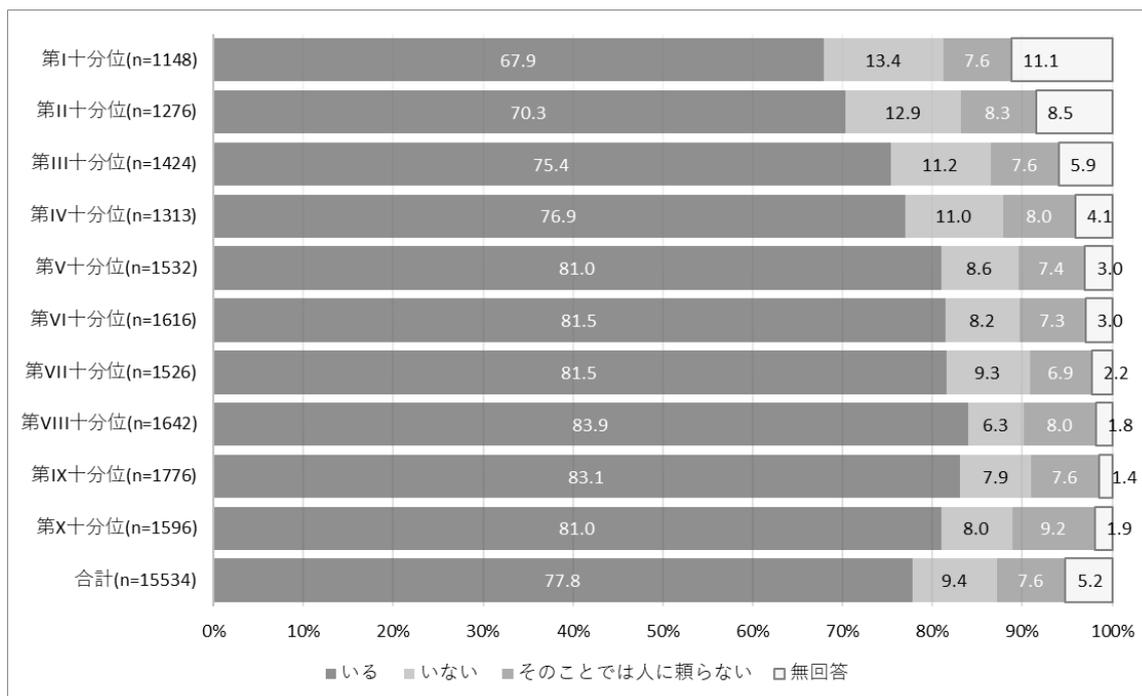
図表 III-15 世帯タイプ別 頼れる相手(日頃のちょっとした手助け)別 個人の割合(%)  
(複数回答)



注) 世帯票及び個人票により集計している。全体の合計には各タイプに分類できない世帯に属する個人を含む。各合計は、日頃のちょっとしたことの手助けで頼れる人がいると回答した人数であり、頼れる相手について無回答を含む。頼れる人の選択肢のうち「その他の人」は省略している。

図表 III-16 は、等価可処分所得階級別に「日頃のちょっとしたことの手助け」で頼れる人の有無を集計している。所得階級の低い者の方が「日頃のちょっとしたことの手助け」で頼れる人がいない割合が高くなっている。

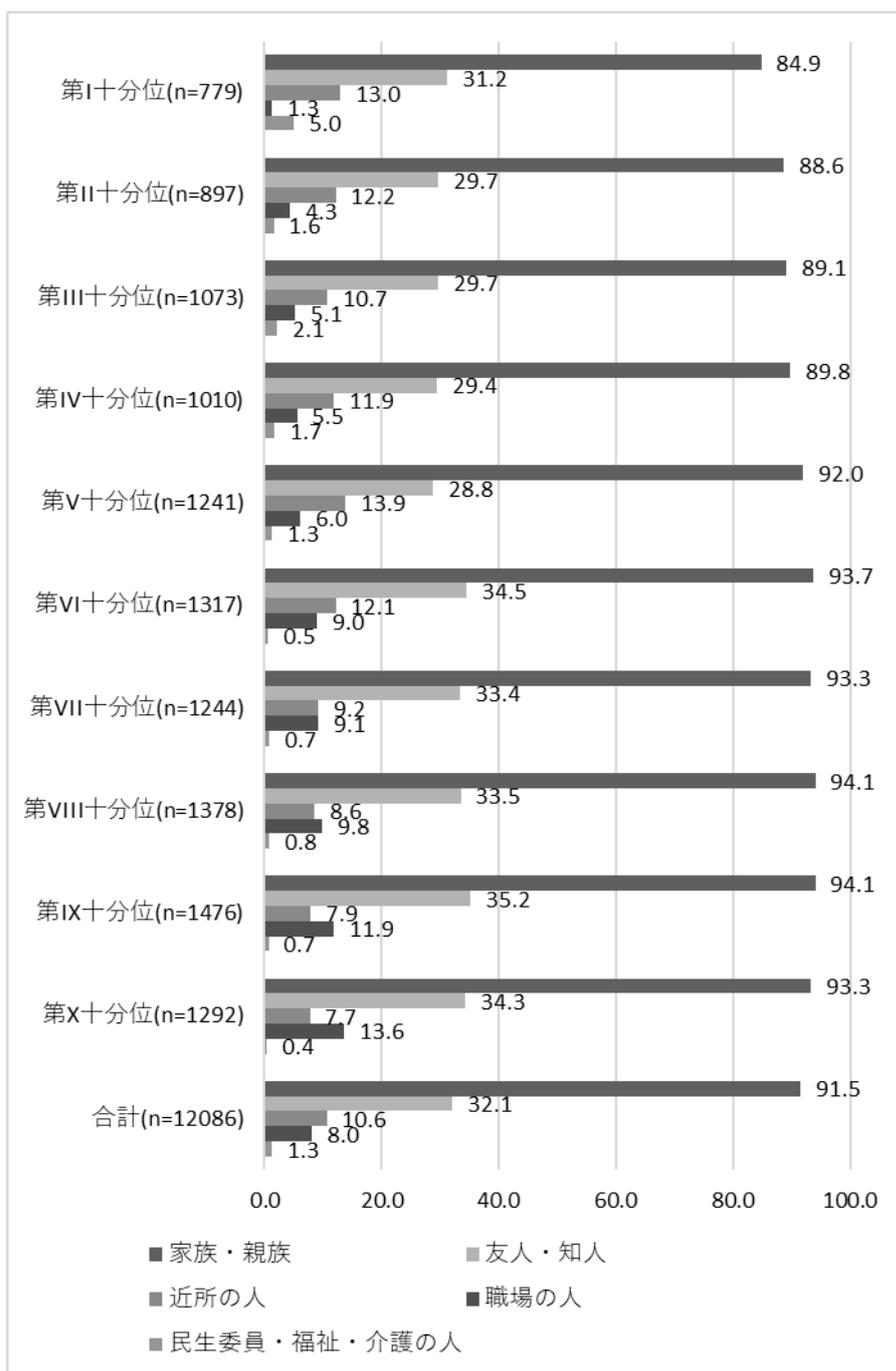
図表 III-16 等価可処分所得階級別 頼れる人の有無（日頃のちょっとした手助け）別 個人の割合（％）



注) 世帯票及び個人票により集計している。全体の合計には所得額が無回答のため等価可処分所得が不明の世帯に属する個人を含む。

図表 III-17 は、「日頃のちょっとしたことの手助け」で頼れる人がいる場合に、その相手について等価可処分所得階級別に集計している。「家族・親族」を頼れる相手として挙げている者は、いずれの所得階級でも 8 割を超えるが、その中でも所得の低い階級ほど割合は低くなっている。また、「近所の人」を挙げている者は第 I～VI 十分位で 10% を超えており、所得の低い層でも中程度の所得の者と同じ程度に近所の人頼れるとしている。

図表 III-17 等価可処分所得階級別 頼れる相手（日頃のちょっとした手助け）別 個人の割合（%）



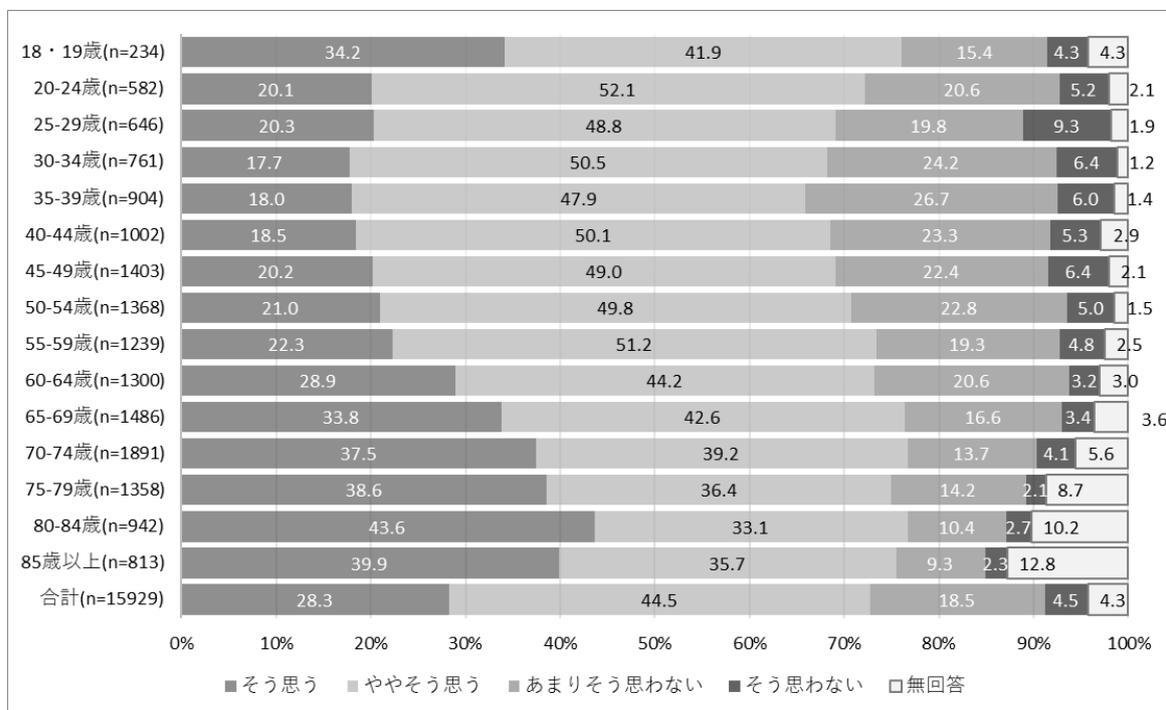
注) 世帯票及び個人票により集計している。全体の合計には所得額が無回答のため等価可処分所得が不明の世帯に属する個人を含む。各合計は、日頃のちょっとした手助けで頼れる人がいると回答した人数であり、頼れる相手について無回答を含む。頼れる人の選択肢のうち「その他の人」は省略している。

図表 III-18 は、「生活上の困難を解決するために、地域の人々はお互いに協力すべきである」という質問において「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した者の割合を、性・年齢階級別に集計したものである。30代以上では年齢階級が上がるほど地域の人々が互いに協力すべきと思う人が多いが、他方で、30歳未満の年齢階級でもそのように思う人の割合が高くなっている。

男女別では、60歳未満の年齢階級において、全般的に女性よりも男性の方が、地域の人々が互いに協力すべきと思う者の割合が高くなっている。

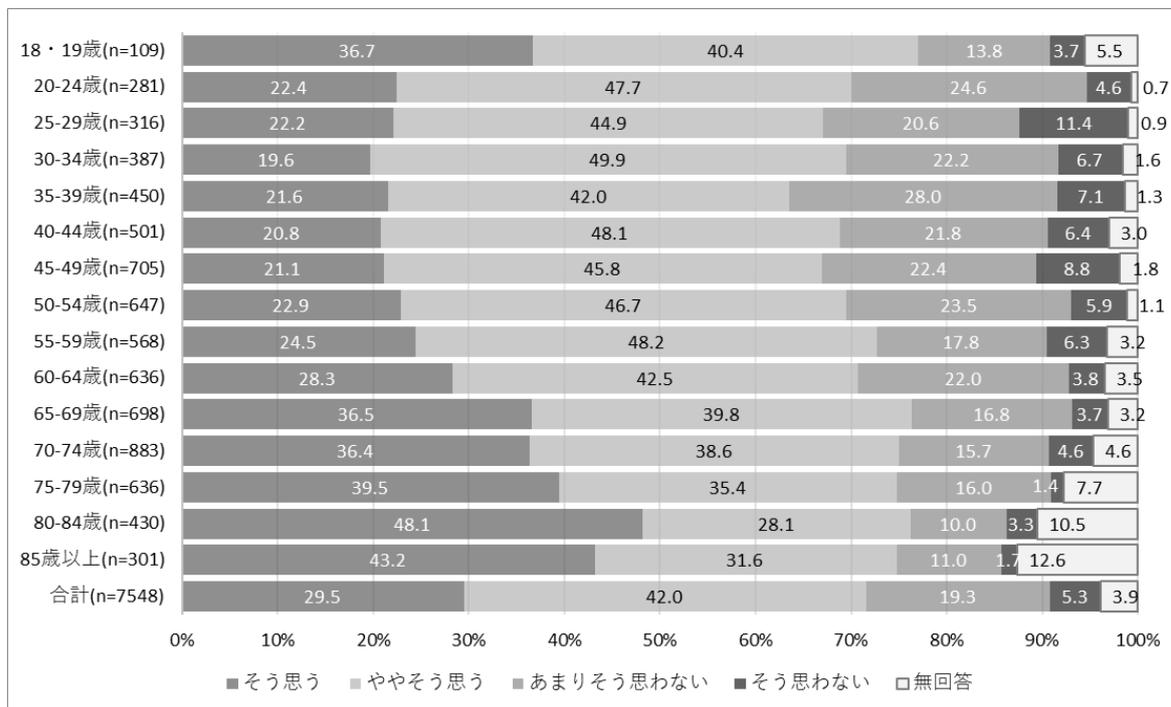
図表 III-18 性・年齢階級別 生活上の困難の解決方法についての考え方（地域の人々はお互いに協力すべき）別 個人の割合（%）

①男女計



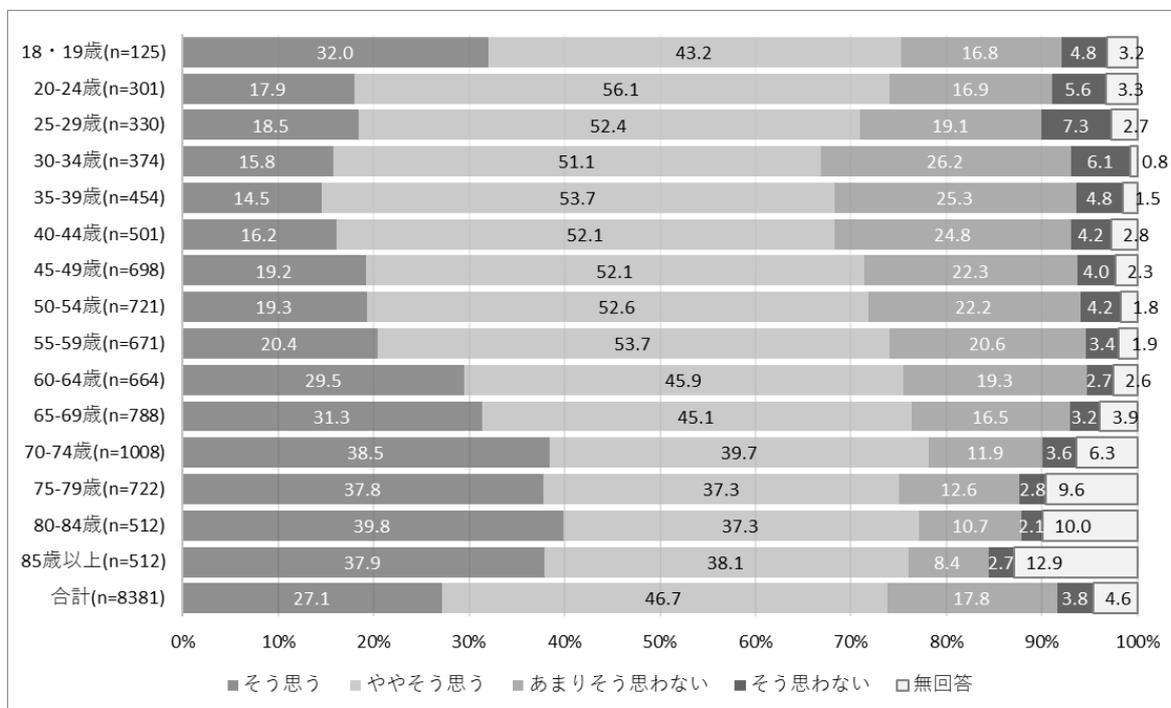
注) 個人票により集計している。

## ②男性



注) 個人票により集計している。

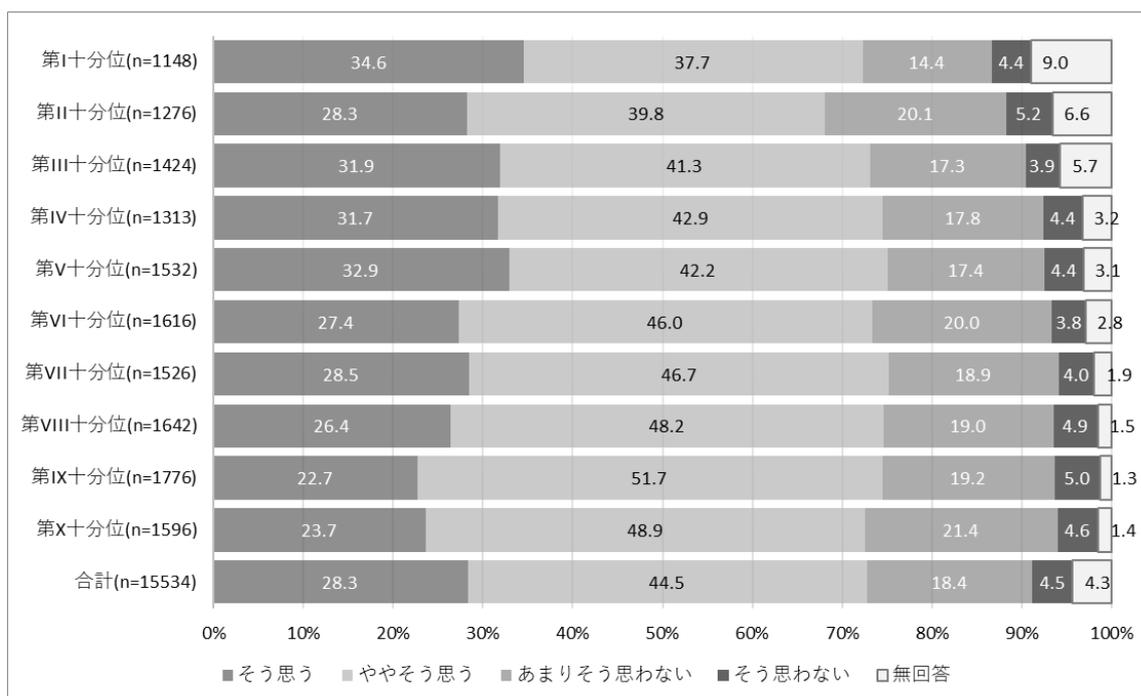
## ③女性



注) 個人票により集計している。

図表 III-19 は、生活上の困難の解決のため地域の人々はお互いに協力すべきかという質問について等価可処分所得階級別に集計している。所得階級が低い方が、地域の人々が互いに協力すべきと思う者の割合が高い傾向にある。

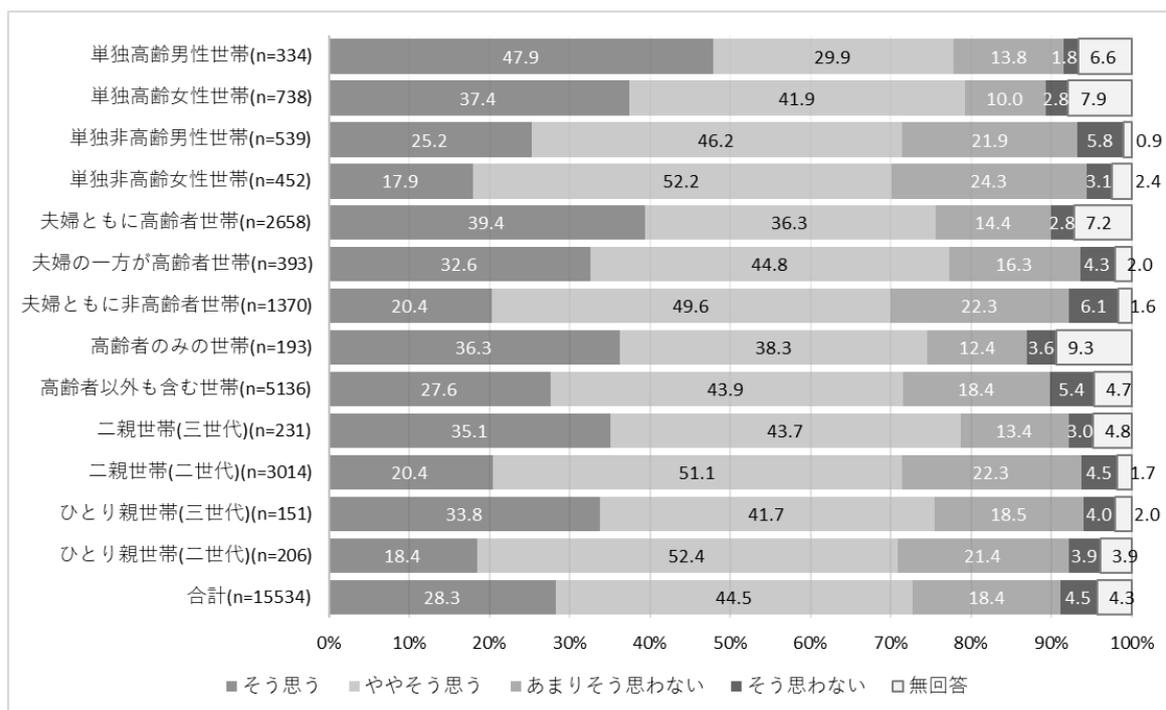
図表 III-19 等価可処分所得階級別 生活上の困難の解決方法についての考え方（地域の人々はお互いに協力すべき）別 個人の割合（％）



注) 世帯票及び個人票により集計している。合計には所得額が無回答のため等価可処分所得が不明の世帯に属する個人を含む。

図表 III-20 は、生活上の困難の解決のため地域の人々はお互いに協力すべきかという質問について世帯タイプ別に集計している。単身非高齢女性世帯では、地域の人々が互いに協力すべきと思う者の割合が相対的に少ない。

図表 III-20 世帯タイプ別 生活上の困難の解決方法についての考え方（地域の人々はお互いに協力すべき）別 個人の割合（％）



注) 世帯票及び個人票により集計している。合計には各タイプに分類できない世帯に属する個人を含む。